

1 教育目標（目ざす児童像含む）

～ かしこく・やさしく・たくましく ～

○ よく考え、学ぶ子ども（知） ○ 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） ○ 明るく、たくましい子ども（体）

2 学校経営の理念（目ざす学校像含む）

激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、自分の考えを堂々と表現でき、社会に有用な子供の育成を図る。そのために学習面においては、基礎・基本の徹底を図るとともに様々な場面で『練り合う』場面を設定する。生活面では、あいさつと返事の徹底を図るとともに『終始一貫』続けられる実践や『気付直行』の精神を大切にした指導を心掛けながら、他人に対する思いやりの心も育成する。また、様々な場面で学校、保護者、地域住民が関わりをもち、「地域に開かれた信頼される学校」をめざす。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ・全教科領域において『自己表現が堂々とできる子』を目ざした指導を行いながら、調和のとれた教育を行う。
- ・終始一貫続けることの大切さや他人のために実践することのよさを体感できる指導を心掛ける。
- 小中一貫教育を生かした教育計画の工夫・実践と上河内地域学校園構想と連携した事業運用に努める。
- 生活と学習の基礎・基本の定着を図る。
- ・仲間との共同生活を通じて、人間性や社会性など豊かな心と健やかな身体を育成する。
- ・楽しく居がいのある学校づくりを推進し、地域に開かれた学校づくりに努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

～主体的に学び、自分の考えを進んで表現できる子どもの育成～

- （学 校 運 営）○ 笑顔と活気がある楽しい学校で地域に開かれ、信頼される学校をめざす。
○ 人生の先達として人間として正しい道を教え、実践する教職員をめざす。
- （児童生徒指導）○ 教職員と子供たちのよりよい人間関係の中で、いじめ・不登校ゼロをめざす。
○ 健康と安全教育に目を向けた指導を心がける。（人命尊重）
○ 地域安全マップの作成とその活用を図る。
- （健康・体力）○ 態度基礎訓練として、特に「気をつけ」時の足の開きを徹底する。（「正しい姿勢」）
○ 自分のわがままに打ち勝つ強い心の育成(気づきの生活)を図る。
- （学 習 指 導）○ 「楽しく分かる授業」を展開するために、子どもが主役の『練り合い』の授業に心掛けながら学力の定着を図る。
○ 小中一貫乗り入れ授業を通して、学習面での課題の明確化を図る。

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 90.9% 「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 94.9%	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。	B	A1について 【達成状況】 ・ 児童の肯定的回答 90.9%で、保護者 94.9%で指標を達成した。教職員・地域住民はともに 100%の達成であった。 ・ ①については、意識づけが図れるように、児童がよく利用する昇降口の壁面に合言葉を掲示したり、昇降口付近に合言葉を入れた顔出し看板を設置したり、校長講話や学級において合言葉に触れたりすることにより児童に浸透してきた。 【次年度の方針】 ・ ①については、場を捉えて、合言葉がさらに浸透していくように学校教育全体で実施していく。 ・ ②③継続
		② 学校行事では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、明るく生き生きと取り組ませる。	B	
		③ にこにこ班(縦割班)活動を、これまでの学校行事や清掃から、月1回の共遊を中心とする活動にも広げ、共に活動することを通して信頼を深め、明るく楽しい学校を目指す。	B	

A2 教職員は、組織の一員として誠実に熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「先生は大切なことを熱心に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 98.4% 「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 95.2%	① 学びに向かう集団に高めながら、児童一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し、意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助する。 ② 職務の遂行に当たっては、キャリアや専門性、特性を生かし、見通しをもって創意ある取組を目指す。 ③ 保護者や地域住民へ、児童の様子の紹介や協力依頼の発信など進んでコミュニケーションをとり学校教育の理解を促す。 ④ 来校者・電話・連絡帳などでの手紙には、速やかに丁寧に対応する。 ⑤ 服務規律を守り、信頼される教職員を目指す。	A B A B A	A2について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 98.4%, 保護者 95.2% 教職員・地域住民ともに 100%で、いずれも指標を達成した。 ①②③④⑤いずれも努力した。 【次年度の方針】 ①については、児童が意欲的に学習に取り組めるように教職員が教材研究ができる時間と場の確保に努める。 ②については、教職員一人一人が自分のよさと教育者としての自覚をもち、学校経営への参画意識をもって取り組んでいく。 ③④⑤については、どのようなことでも誠意をもって、全職員が足並みを揃えて取り組んでいく。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 81.8% 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 83.9%	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「よい子の生活」に示し、学習と生活のきまりの徹底に努める。 ② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう週生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って意識づけをする。 ③ 避難訓練(火災・地震・不審者)、交通安全教室、防犯教室の実施や、「子ども110番の家」への理解等を通して、危機管理能力を高める。	A A A	A3について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 81.8%, 保護者 83.9% 教職員 84.2%, 地域住民 100%でいずれも指標を達成した。 ②については、生活当番の先生の活躍の場が少なかった。 【次年度の方針】 ①については、朝の会等で「よい子の生活」を取り上げ徹底して意識づけさせたり定期的に振り返らせたりする。また、「よい子の生活」の重点項目の洗い出し、家庭への積極的な啓蒙をしていく。 ②については、生活当番の先生が巡視して気付いたことを放送したり、児童指導主任に報告したりして、児童指導に機能していく。
A4 教職員は、分かる授業やきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート	① 授業のねらいを明確にし、児童の関心や理解を促す教材開発や分かる授業のための指導法の工夫に努めると共に、共有化を図る。	A	A4について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 94.4%, 保護者 88% 教職員・地域住民ともに 100%でいずれも指標を達成した。 ①②の学習指導の指導法の工夫や個に応

A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 91.4% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 96.1%	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実する。 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	A A	A7について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 91.4%, 保護者 96.1% 教職員・保護者ともに 100%でいずれも指標を達成した。 ①②ともに、地域協議会の協力や地域コーディネーターのお陰により、外部人材を学習活動に取り入れ、大いに実のある活動が展開された。 【次年度の方針】 - 外部講師を必要とするときには、2か月先を見越して、コーディネーターに連絡を取るようになる
A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、清掃がしっかり行われ学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 83.8% 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 97.4%	① 校舎内外の美化に努め、児童自ら日常的に清掃活動に取り組むよう支援し、快適な学習環境作りを目指す。 ② 日々校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い学習環境の整備に努める。 ③ 適切に予算を執行し、指導計画に基づいて教材教具を整備してその適切な活用と管理に努める。	B B B	A8について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 83.8%, 保護者 97.4% 教職員・保護者ともに 100%でいずれも指標を達成した。 ①②ともに、本校の校舎内外の環境がよく、環境整備や備品管理作業等実施している。 ③については、予算の執行についての情報を積極的に教職員に示したり、緊急に執行の必要性があるものについて早急に対応したりして、少ない予算を計画的に有効に使うことができた。 【次年度の方針】 ①②③いずれにおいても、夏季休業等で、備品整理や自作教具、教材の整理・管理作業を行っていく。
B1 教職員が情報を共有し、課題のよりよい解決に向けて全職員が一丸となって取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 教職員 100%	① 管理職及び職員間の報・連・相を大切にし、互いに声をかけ合うと共に、「報・連・相ノート」を活用して共通理解に努め協力し合う。 ② 問題行動発生時には、校長のリーダーシップのもと全職員が連携して組織的に取り組み、誠意ある対応を心掛ける。	B B	B1について 【達成状況】 - 教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 ①については、共通理解を図っている。 - 特別支援教育のチーム会議は、計画的にまた、必要に応じて適切に実施された。また、管理職には情報を常に伝え、対応してきた。 【次年度の方針】 ①②ともに継続していく。

教育活動の状況①	生活	A9 児童は、進んであいさつをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時や場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 80.3% 保護者 74.2%	① 各学年のあいさつ運動や地域協議会のあいさつ運動で意識を高めながら、日々の生活指導の中で明るいあいさつや元気な返事ができる子の育成を目指す。	A	A9について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、80.3%、保護者は74.2%、教職員は78.9%、地域住民は81.8%である。 ①のあいさつ運動については、学年によるあいさつ運動が年間47回、地域協議会においても、年間10回実施した。 - 小中一貫教育の取組として、年間2回中学生が出身小学校に出向き実施した。 【次年度の方針】 ①については、継続。
		A10 児童は、正しい言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 68.6% ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 69.6%	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させると共に、道徳の時間の重点項目に掲げて指導の徹底を図る。	A	A10について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は68.6%、保護者は69.6%、教職員は63.1%、地域住民は90.4%で、児童・保護者・教職員ともに指標に届かなかった。 【次年度の方針】 - 実践化できることが大切なので、日常的に全職員で指導にあたっていく。休み時間の会話、職員室の入り方、友達の呼び方等教職員が共通理解の下指導にあたる。
		B2 みんなと仲良く、助けて生活している。〔全〕 【数値指標】 いじめの実態調査 ⇒いじめの解消率100%	① いじめの早期発見・早期対応のため、年度当初にいじめの実態調査の日程を決めて定期的を実施して実態把握に努めるとともに、年に2回定期教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	B	B2について 【達成状況】 - 児童からの訴えをよく聞き取り解決し、いじめの解消率は100%で指標を達成した。 - いじめのアンケートは7月、10月、2月の3回実施した。 - 学年縦割りのにこにこ班で「なかよし集会」を実施し人権に関する標語を作ったり、掲示・発表により意識化が図られた。 - 校長の人権に関する落語の内容も興味を引いた。 【次年度の方針】 ①②ともに継続
	健康・体力	A11 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 82.3%	① ミニマム達成のための運動プログラムを実施して運動の日常化に努めながら、教科体育においては授業の開始に当たってサーキットトレーニングを実施し個に応じた体力づくりに努める。	A	
			② 態度基礎訓練として、特に「気をつけ」時の足の開きを徹底する。	A	A11について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は82.3%、保護者は79.8%、教職員は89.4%、地域住民は83.3%で指標は達成した。 - サーキットトレーニングは発達段階を考慮しながら取り入れ、有効的に活用を図っている。 【次年度の方針】 ①は継続 ②の「気をつけ」の足の開きについては、美しい姿勢にも運動することとして指導していく。 ③については、各学級で計画を立て実施する。 - 水泳検定表は、地域学校園で検討し、次年度は導入予定である。
			③ 学級においては、水曜日のロング昼休みに共遊の時間を確保するように努め、体力向上を目指すとともに学級の人間関係の構築を図る。	A	

学 習	A12 児童は栄養にバランスを考えて食事している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 75.7%	① 学校栄養職員の取組みを生かし、教室やランチルームでの給食指導の充実を図ったり、保護者への啓発に努めたりしながら、望ましい食習慣を育て食事のマナーを身につけさせる。 ② 食事をとることの大切さについて、学年に応じた授業を通して理解を深め、自ら実践する態度を育てる。	B A	A12について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は75.7%、保護者は62.7%、教職員は73.6%、地域住民は66.6%で、いずれも指標に届かなかった。 - ランチルームでの給食では、マナーの指導等をその都度行ってきた。残菜についても、励ましながら少しずつでも食べられるように指導してきたが、なかなか難しい面がある。 【次年度の方針】 ①については、栄養士が授業や日常的な給食指導を行っていく。 ②については、栄養指導の授業を参観してもらうチャンスを作ったり、親学の講座を開いたりして保護者への啓蒙を広めていく。
	A13 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は授業中に進んで話合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 81.3%	① 授業では、聞く態度の定着を基盤に、基礎・基本の徹底を図るとともに、様々な学び合いの中で「練り合う」場面を設定し、「話す」の力を高めながら、自分の考えを堂々と表現できる児童を育てる。 ② 学び合いの場面では、友達の考えを参考にしたり、比較したりしながら、自分の考えをまとめ、表現する力の育成に努める。	A A	A13について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は81.3%、保護者は84%、教職員は73.6%、地域住民は93.3%教職員以外は指標を上回った。 - 人の前で年間36回以上話す経験をさせるという学校経営の方針の下指導してきたが、発表においてはまだまだ消極的である。 【次年度の方針】 - 児童に発表の場をもたせることにより、数多くの経験をさせる。また、自信をもって発表できるように、原稿を書いたり、十分練習したりするなどして安心感をもって取り組めるようにする。
	B3 基礎的・基本的な学習内容を身につける。〔全〕 【数値指標】全体アンケート「自分から学習し授業でわかることやできることがふえた」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 85.8%	① 朝の学習や授業において、漢字・計算等の徹底した反復練習によって定着を図り、達成感を味わわせることにより学習の習慣化を目指す。 ② 家庭と連携を図りながら、(学年×10分)の家庭学習を実践する。	A A	B3について 【達成状況】 - 児童肯定的回答率は85.8%で指標を達成した。 ①については、今年度日課を見直し、朝の学習の時間帯を固定化することにより、児童が主体的に学習に取り組めるようになってきた。 【次年度の方針】 - 家庭の協力が得られるように、今後も継続的に意識づけをしていくことが必要である。
	A14 児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に先生や	① 学習の基盤となる学習態度や学習技能を身につけるために、学校全体で「学習のきまり」に取組み、系統的に発展的指導に努める。	B	A14について 【達成状況】 児童肯定的回答率は82.8%、保護者は85%教職員は89.4%、地域住民は94.4%で指標を達成した。

	友達の話をよく聞くなど、落ち着いた学習している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 82.8% 保護者 85%	② 「話の聞き方」については、全教育活動を通して、学年の発達段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。	B ①の「学習のきまり」や掲示物は、共通理解の下指導ができ効果的であった。 ②の全体で集まる朝会や集会時には、静かに待ったり、黙って聞いたりすることができるようになってきた。 【次年度の方針】 - 普段の授業や朝会、集会等で全員が集まった時の態度が良くなってきている。今後も継続指導していく。さらに、発達段階に応じて、話している内容をよく考えながら聞くことができるようにしていく。
本校の特色 ・課題等	B4 自分の住んでいる地域を理解し、郷土に対する愛情を持っている。 【数値指標】 全体アンケート『「ふるさとカルタ取り大会」や『羽黒山遠足』は児童の郷土愛を育むのに効果的である』『食農体験活動は農業や食への理解や関心を深めるために大切な活動である』 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 90.9% 保護者 93.8%	① 「ふるさとカルタ」について調べる中で、地域のすばらしさに触れ、地域の方との交流を深める。さらに、家庭でもカルタを利用してもらうことにより家庭と連携しあった活動を目指す。また、地域のシンボルである羽黒山に登り、郷土愛をはぐくむ。 ② 全児童が食農体験事業で田植えや稲刈りを体験したり、5年児童が総合で稲の観察や世話などを実践したりすることで農業や食への理解や関心を深める。	B B4について 【達成状況】 - 児童肯定的回答率は 90.9%, 保護者 93.8% 教職員 89.4%, 地域住民 100%で指標を達成した。 ①の「ふるさとカルタ」については、中間期評価を受けて、今年度見直しを行い、135 枚のカルタを 50 枚に精選したことにより、地域のよさを再確認するよいチャンスになった。 ②の食農体験では、収穫した米で、各学年の担任の創意により、おにぎりやいなり寿司、かまどでご飯炊きをするなど実施することができた。 【次年度の方針】 ①の「ふるさとカルタ」については今年度見直しを行ったので、来年度も継続していく。また併せて「うつのみやカルタ」や「百人一首」も実施していく。 ②については、稲の生育に関わる活動を児童が実施できるようにする。

〔総合的な評価〕 ※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・「学校運営の状況」については、8項目中すべて、児童も保護者も地域住民も教職員もすべての対象者で指標を大きく上回る結果となった。その中で、教職員は、それぞれの担当分野で、また学校の全教育活動を通して、創意工夫をしながら誠実に指導を行ってきたこと等が教職員の回答状況からうかがえる。しかし、保護者の中には、児童の実態を把握しきれていない現状も見られた。そこで、今後、学校は保護者に対して児童の実態と学校の取り組みについて説明する機会をこれまで以上に設け、保護者の理解を深めるとともに、親学講座などを実施して家庭の教育力向上を図る取組を積極的に行っていく努力が必要である。その担い手として、学校と家庭をつなぐパイプ役を地域協議会やPTAに求め、その協力を日々の教育活動に得られるようにしていきたい。
- ・「教育活動の状況」の「あいさつ」「言葉づかい」については、保護者の肯定的回答が昨年度より上回ったが、指標には届かなかった。併せて児童の肯定的回答率については、「あいさつ」は指標を上回ったが、「言葉づかい」については指標に届かず、昨年度の肯定的回答率より下がってしまった。特に「言葉づかい」については児童も自覚している様子がうかがえるので、家庭にも積極的に働きかけ協力を得ながら、気持ちのよい会話ができるように学校全体で取り組んでいきたい。また、地域全体にも関わることとして、小中一貫教育においても話題に取り上げ、改善に向けて取り組んでいきたい。
- ・今年度、本校の合言葉である「かしこく やさしく たくましく」が定着してきたので、日々の教育活動において、この合言葉とさらに連動させて指導にあたっていきたい。

6 学校関係者評価

- ・どの対象者の肯定的回答の割合の大半が上っており教育活動が健全に実施されていることが分かる。自己評価の結果は、課題の把握や今後の改善策について方向性が適切に示されている。また、学校独自項目の「評価項目」「主な具体的な取組」等も実態に即した内容であり、今後さらに目的達成に向け取組の創意工夫を行っていく。
- ・学校が家庭や地域と一層の協力・連携して取り組むべきこととして挙げられるのは、学校支援ボランティアの充実で、募集の工夫改善に取組む必要がある。今年度は地域コーディネーターの活躍により、学区内だけではなく、上河内地区全体にも広く人材を求め、児童にとって有効で充実した教育活動がなされた。学校と家庭と地域がより身近な関係を築き、信頼関係を構築していく上でも大切である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・ 今年度は、児童・保護者・教職員・地域住民の対象者において、肯定的回答の割合の大半が上がり、教育活動が順調に実施されてきたことが分かる。学校の日々の努力に加え、昨年度の学校評価と本校独自の教育課程評価を丁寧に行い、全職員で日課表の改善や児童に本物に触れる経験を計画的に実施してきたことが功を奏したものとする。
- ・ 保護者は学校からの情報提供や連携について評価しているものの、児童の学習や生活の状況について課題意識をもっている。「好き嫌いをなく食べる」「あいさつ」「言葉づかい」は、将来を担う児童にとって基本となることである。その課題意識を、学校は家庭と連携して教育を行う機会と捉え、次年度は「共に子どもをよくしていく」視点で家庭にも積極的に関わっていきたい。それは家庭の教育力に関わる課題に対する改善策として、取り組むべき課題を謙虚に受け止め、教職員が一丸となり取り組んでいくことが必要だからである。
- 学力向上に向けては、上河内地域学校園として学習のきまりや家庭学習等、上河内4校が足並みを揃えて取り組んでいく。また、次年度は小中一貫研修会において教科部会も開き、小中9年間を見越した指導計画等についても話し合っていくことになる。